

2012年3月期 第3四半期決算の概要

2012年1月31日(火)

コマツ 経営管理部

1. 2011年10-12月（3カ月間）の実績

2011年10-12月（3カ月間）の連結売上高と損益

- ・建設機械・車両部門は、円高および中国の販売減を、その他地域、鉱山機械、部品等でカバーし、対前年同期比増収増益。
- ・産業機械他部門は、ワイヤーソーの販売が大きく減少したことにより、対前年同期比減収減益。
- ・連結売上高は+4.6%増収の4,626億円。営業利益は前年同期並みの588億円。

％：利益率

():外部顧客向け売上高

金額単位：億円

	2010年10-12月 1ドル = 82円 1ユーロ = 110円 1元 = 12.4円	2011年10-12月 1ドル = 78円 1ユーロ = 105円 1元 = 12.3円	対前年同期比	
			増 減	増減率
売上高	4,422	4,626	+204	+4.6%
- 建設機械・車両	(3,832) 3,838	(4,114) 4,126	(+281) +287	(+7.3%) +7.5%
- 産業機械他	(589) 612	(512) 530	(▲77) ▲81	(▲13.1%) ▲13.4%
- 消去	▲29	▲30	▲1	-
セグメント利益	13.6% 599	12.7% 588	▲10	▲1.7%
- 建設機械・車両	14.1% 540	14.3% 588	+47	+8.7%
- 産業機械他	11.9% 72	3.0% 15	▲56	▲78.1%
- 消去または全社	▲14	▲15	▲0	-
その他の営業収益(▲費用)	*1 ▲11	0	10	-
営業利益	13.3% 588	12.7% 588	+0	+0.1%
その他の収益(▲費用)	▲0	▲34	▲33	-
税引前純利益	587	554	▲33	▲5.7%
純利益*2	368	347	▲21	▲5.9%

*1 構造改革費用▲5億円を含む

*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

3

□ 2011年10～12月（以下「当四半期」）、連結売上高は対前年同期比+204億円（+4.6%）増収の4,626億円、営業利益は前年同期並みの588億円となりました。

□ 当四半期の為替レートは1米ドル=78円（対前年同期比4円の円高）、1ユーロ=105円（同5円）と円高が更に進展しました。

□ 建設機械・車両部門の業績は、大幅な円高および中国における建機販売減を他地域および鉱山機械、部品等の販売増でカバーすることで、対前年同期比+287億円（+7.5%）の増収、セグメント利益で+47億円（+8.7%）の増益となり、セグメント利益率は14.3%に改善しました。

□ 産業機械他部門は、ワイヤーソーの販売が大きく減少したことにより対前年同期比▲81億円（▲13.4%）の減収、セグメント利益で▲56億円（▲78.1%）の減益となり、利益率は3.0%になりました。

＜建設機械・車両＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

・中国の販売減により、売上高は前四半期より減少したものの、販売価格の改善等により、セグメント利益率は14.3%と更に改善。



為替レート	08/1Q	08/2Q	08/3Q	08/4Q	09/1Q	09/2Q	09/3Q	09/4Q	10/1Q	10/2Q	10/3Q	10/4Q	11/1Q	11/2Q	11/3Q
ドル	105円	107円	95円	95円	97円	93円	90円	91円	91円	85円	82円	82円	81円	77円	78円
ユーロ	165円	159円	126円	123円	133円	133円	133円	124円	115円	111円	110円	114円	118円	109円	105円
元	15.2円	15.7円	13.9円	13.9円	14.2円	13.6円	13.2円	13.3円	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	12.3円



□ 建設機械・車両部門の当四半期の売上高は、中国での販売減により直前の第2四半期より減少しましたが、販売価格の改善等によりセグメント利益率は14.3%と、0.2ポイント向上しました。

□ セグメント利益率は、円高が進む中、14%前後を維持しています。

<建設機械・車両> 2011年10-12月(3カ月間)の売上高内訳

・中国での販売減をその他戦略市場および伝統市場でカバーし、対前年同期比増収。

建設機械・車両 地域別売上高(外部顧客向け)

金額単位:億円

		2010年10-12月 1ドル = 82円 1ユーロ = 110円 1元 = 12.4円	2011年10-12月 1ドル = 78円 1ユーロ = 105円 1元 = 12.3円	対前年同期比	
				増減	増減率
伝統市場	日本	696	780	+84	+12.2%
	北米	486	552	+65	+13.5%
	欧州	243	291	+48	+19.9%
戦略市場	中南米	427	489	+62	+14.5%
	CIS	167	185	+18	+10.8%
	中国	672	355	▲317	▲47.1%
	アジア	602	794	+191	+31.8%
	オセアニア	289	385	+96	+33.2%
	中近東	66	72	+6	+9.2%
	アフリカ	179	205	+25	+14.4%
合計		3,832	4,114	+281	+7.3%

5

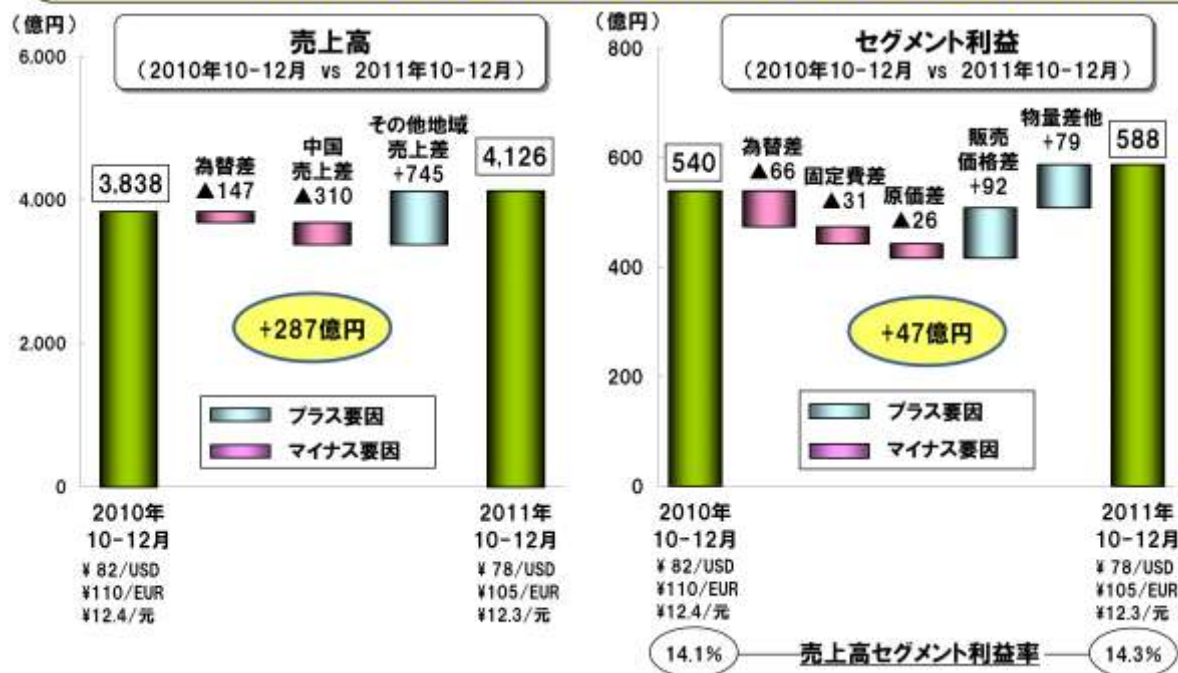
□ 当四半期の建設機械・車両部門の売上(外部顧客向け)を地域別にみると、中国で大幅な販売減となったものの、それ以外の地域ではいずれも前年同期に比べて増加し、合計で対前年同期比+281億円(+7.3%)の増収となりました。

□ 中国を除いた場合、建設機械・車両の売上高は対前年同期比 約+19%の増収となります。

<建設機械・車両> 売上高・セグメント利益の増減要因（3カ月間）

売上高： 円高および中国の販売減によるマイナスを、他地域、鉱山機械、部品等の販売増でカバーし、対前年同期比+287億円の増収。

セグメント利益： 円高、固定費増、鋼材価格上昇等によるマイナスを、販売価格改善、物量増でカバーし、対前年同期比+47億円の増益。セグメント利益率は14.3%に改善。



- 当四半期の建設機械・車両部門の売上高を前年同期と比較すると、円高による為替差▲147億円（うち米ドルの影響が約90億円）および中国の販売減▲310億円のマイナス要因を、他地域および鉱山機械、部品等の販売増でカバーし、対前年同期比+287億円の増収となりました。
- セグメント利益については、円高、固定費増、鋼材価格の上昇に起因する原価アップといったマイナス要因を、販売価格の改善や物量増等のプラス要因でカバーし、対前年同期比+47億円の増益となりました。

2. 2011年4-12月(9カ月間)の実績

2011年4-12月（9カ月間）の連結売上高と損益

- ・円高および中国での販売減を、その他地域、鉱山機械、部品等でカバーし、対前年同期比増収増益。
- ・建設機械・車両、産業機械他部門とも利益率が改善。売上高営業利益率は13.2%に向上。

□: 利益率 (): 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円

	2010年4-12月 1ドル = 86円 1ユーロ = 112円 1元 = 12.8円	2011年4-12月 1ドル = 79円 1ユーロ = 111円 1元 = 12.3円	対前年同期比	
			増 減	増減率
売上高	13,019	14,485	+1,465	+11.3%
- 建設機械・車両	(11,469) 11,485	(12,651) 12,690	(+1,181) +1,205	(+10.3%) +10.5%
- 産業機械他	(1,550) 1,627	(1,834) 1,894	(+283) +266	(+18.3%) +16.4%
- 消去	▲93	▲99	▲6	-
セグメント利益	□12.7% 1,650	□13.2% 1,916	+265	+16.1%
- 建設機械・車両	□13.6% 1,563	□14.1% 1,789	+225	+14.4%
- 産業機械他	□8.2% 134	□8.8% 167	+33	+24.8%
- 消去または全社	▲47	▲40	+6	-
その他の営業収益(▲費用)	+1 ▲23	1	+25	-
営業利益	□12.5% 1,627	□13.2% 1,918	+290	+17.9%
その他の収益(▲費用)	▲38	▲61	▲23	-
税引前純利益	1,589	1,856	+267	+16.9%
純利益*2	1,006	1,293	+287	+28.6%

*1 構造改革費用▲27億円を含む

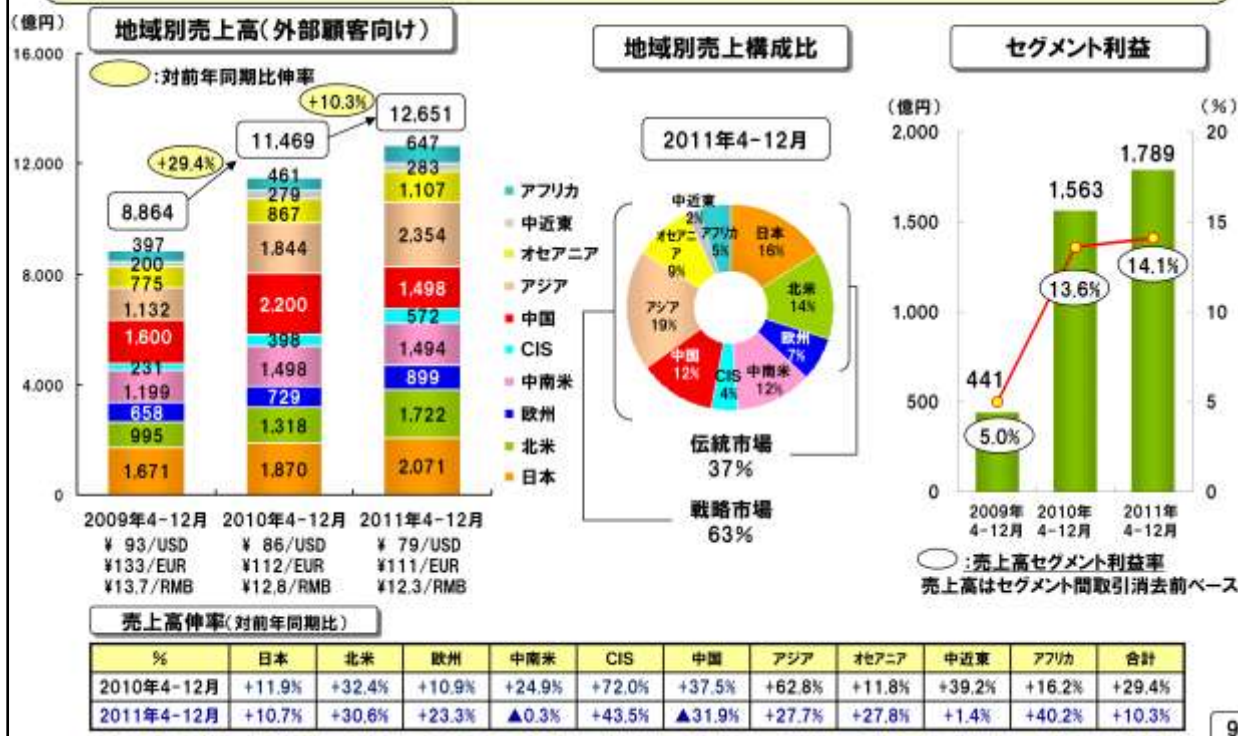
*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する四半期純利益」

8

- 2011年4月～12月（9カ月）累計の建設機械・車両部門の売上高は、円高および中国の販売減を他地域および鉱山機械、部品の販売増等でカバーし、対前年同期比+1,205億円（+10.5%）増収の1兆2,690億円となりました。
- 産業機械他部門の売上高は、プレス機械、工作機械、プレハブハウス等の販売増ならびにギガフォトン（株）を新規に子会社化したことにより、対前年同期比+266億円（+16.4%）増収の1,894億円となりました。
- セグメント利益は、建設機械・車両部門が1,789億円と対前年同期比+225億円（+14.4%）の増益となり、利益率は14.1%と+0.5ポイント改善しました。
産業機械他部門も167億円と対前年同期比+33億円（+24.8%）の増益となり、利益率は+8.8%と+0.6ポイント改善しました。
- 全社の営業利益は対前年同期比+290億円（17.9%）増益の1,918億円、売上高営業利益率は対前年同期比0.7ポイント改善し、13.2%となりました。

<建設機械・車両> 地域別売上高とセグメント利益（9カ月間）

- ・中国を除く戦略市場および伝統市場での販売増により、売上高は対前年同期比+10.3%の増収。
- ・大幅な円高にもかかわらず、売上高セグメント利益率は14.1%に向上。

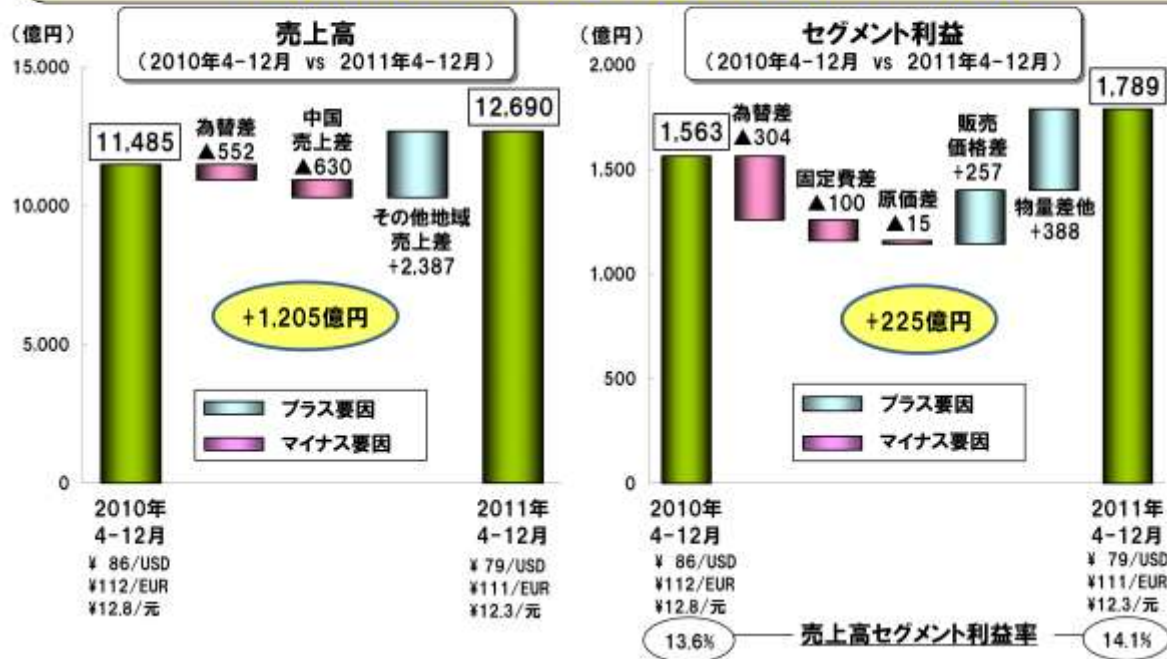


- 2011年4月～12月（9カ月）累計の建設機械・車両部門の売上高（外部顧客向け）は、対前年同期比+10.3%増収の1兆2,651億円となりました。
- 地域別にみると、中国、中南米を除く全地域で対前年同期比プラスとなりました。
なお中南米は、ブラジルの景気減速を他国およびマイニング向けでカバーし、物量では前年比プラスでしたが、円高の影響を受け、額では若干のマイナスとなりました。
- 中国の需要が減速する一方、日本・北米・欧州の需要が回復したことで、伝統市場の売上比率は対前年同期比で3ポイント増加し、37%となりました。
- 売上高セグメント利益率は、大幅な円高にもかかわらず対前年同期比0.5ポイント改善し、14.1%になりました。

<建設機械・車両> 売上高・セグメント利益の増減要因（9カ月間）

売上高： 円高および中国の販売減によるマイナスを、他地域、鉱山機械、部品等の販売増によりカバーし、+1,205億円の増収。

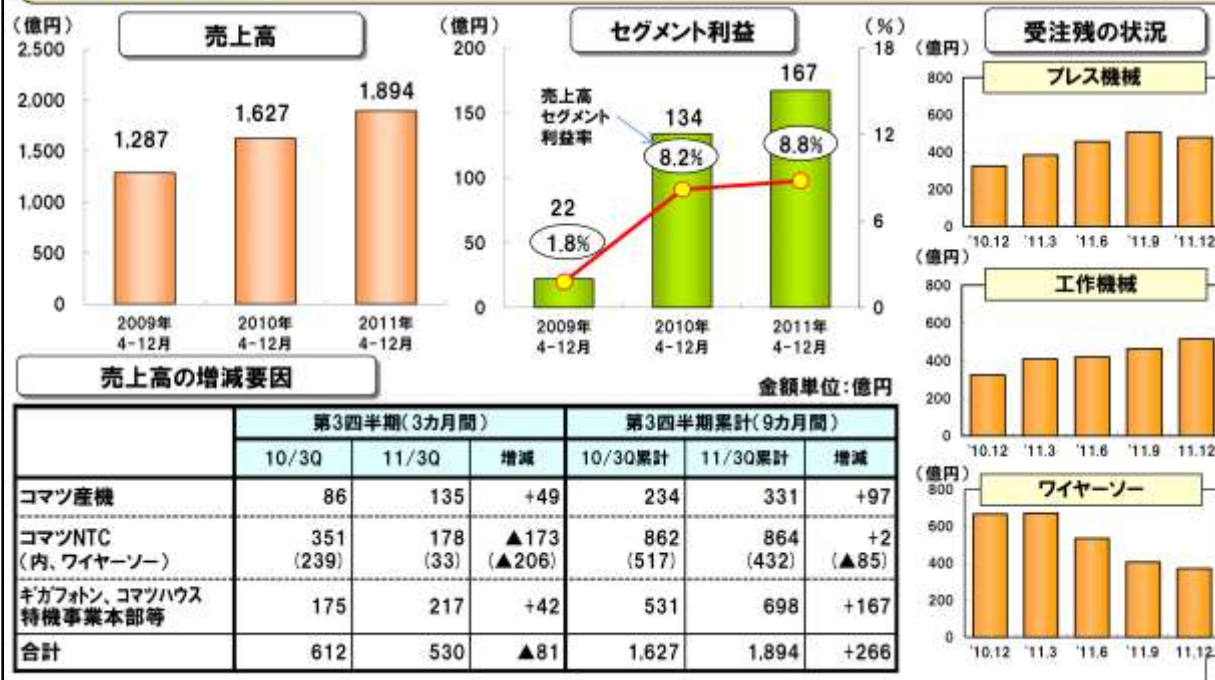
セグメント利益： 円高、固定費増、鋼材価格上昇等によるマイナスを、販売価格改善、物量増によりカバーし、+225億円の増益。セグメント利益率は14.1%に改善。



- 2011年4月～12月（9カ月）累計の建設機械・車両部門の売上高は、円高によるマイナス▲552億円（うち米ドルの影響が約420億円、人民元が約70億円）や、中国の販売減によるマイナス▲630億円を、他地域や、鉱山機械、部品の販売増等でカバーし、対前年同期比+1,205億円の増収となりました。
- セグメント利益は、円高によるマイナス▲304億円（うち米ドルの影響が約260億円、人民元が40億円）、固定費の増加、鋼材価格の上昇等によるマイナスを、販売価格改善および物量増等でカバーし、対前年同期比+225億円の増益となりました。

＜産業機械他＞ 2011年4－12月（9カ月間）の売上高とセグメント利益

・ワイヤーソーの販売は減少したが、プレス、工作機械、仮設ハウスの販売増およびギガフォンの新規連結等により、対前年同期比増収増益。セグメント利益率は対前年同期比0.6ポイント改善し、8.8%。
 ・ワイヤーソーは大幅な受注減により受注残も減少。一方でプレス機械、工作機械の受注は堅調に推移し、受注残は安定的に推移。



□ 2011年4月～12月（9カ月）累計の産業機械他部門の売上高は、ワイヤーソーの販売が減少しましたが、プレス機械や工作機械、仮設ハウスの販売増に加え、ギガフォンの新規連結子会社化等により、売上で対前年同期比+266億円（+16%）の増収、セグメント利益は対前年同期比+33億円（+25%）の増益となりました。

□ セグメント利益率は対前年同期比0.6ポイント改善し、8.8%となりました。

□ ワイヤーソーは、中国の金融引き締め政策や太陽電池用シリコンウェハーの価格下落などの影響を受けて大幅な受注減となり、受注残も減少しました。一方でプレス機械、工作機械の受注は堅調に推移し、受注残は安定的に推移しています。

リテールファイナンスの状況

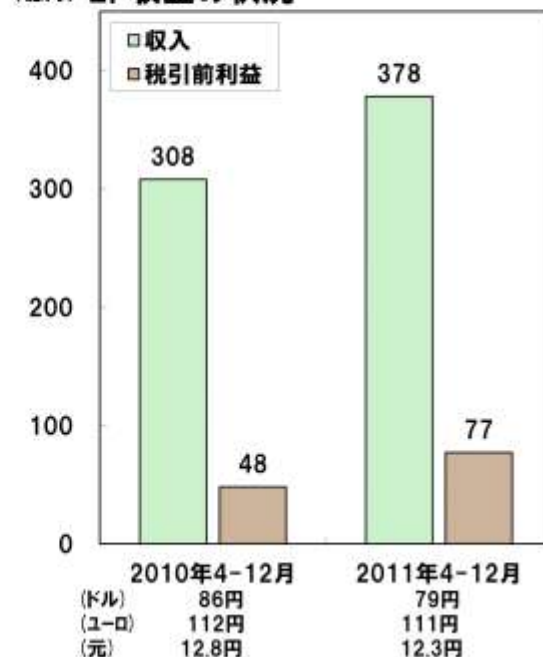
・中国を中心に資産を拡大。対前年同期比増収増益。

リテールファイナンス子会社の状況（社内管理ベース）

1. 資産の状況



2. 収益の状況



- リテールファイナンスは総資産が対前年前期比+460億円増加し、過去最高レベルの3,914億円となりました。為替を除いた実質では約+580億円、約17%の増加となりました。
- 資産増に伴い、収入は対前年同期比+23%増収の378億円、税引前利益も約4%増益の77億円となりました。
- 延滞比率は中国やタイで若干増加しているものの、引き続き貸倒損の発生はありません。また北米では延滞比率、貸倒比率とも改善しています。

連結貸借対照表

- ・需要拡大に対応した鉱山機械、部品の在庫積み増し等により、総資産は前期末比+790億円増の2兆2,281億円。
 ・借入金増の影響により、ネットD/Eレシオは前期末比0.11ポイント上昇し、0.61。

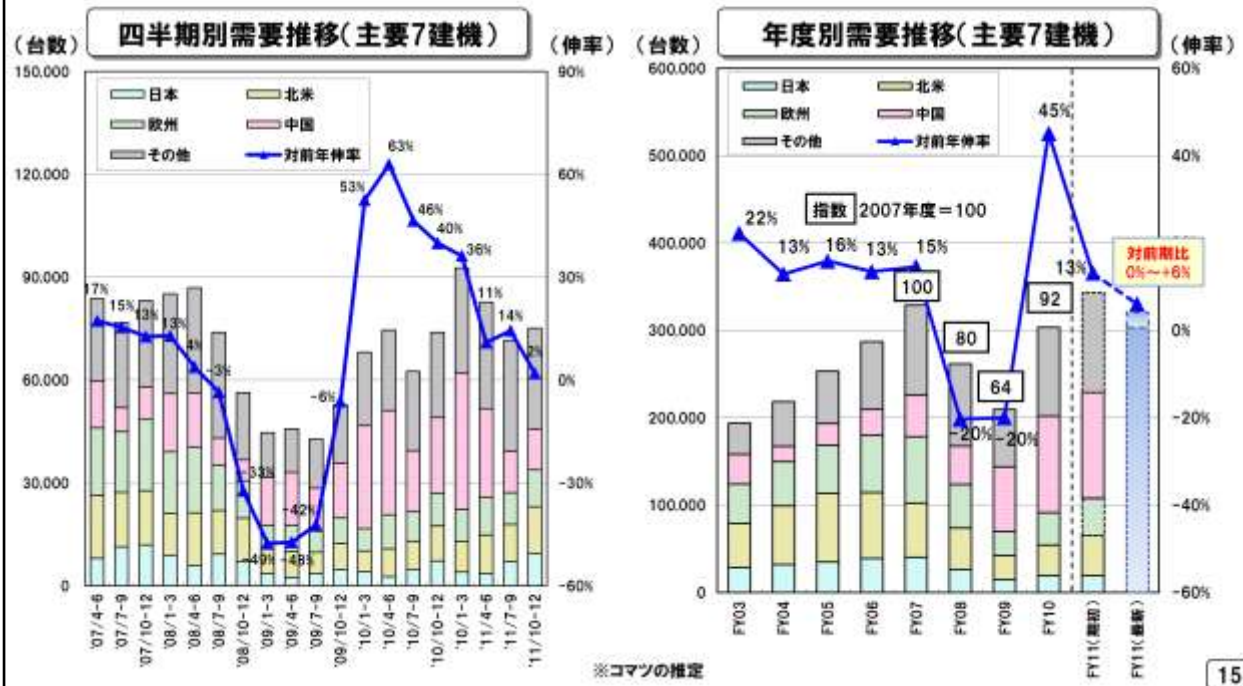
金額単位:億円 ネットD/Eレシオ	2011.3.31 1ドル=83円 1ユーロ=118円 1元=12.7円	2011.12.31 1ドル=78円 1ユーロ=101円 1元=12.3円	増 減
現金・預金(含む定期預金) [a]	849	1,048	+198
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) ＜除くリテールファイナンス会社＞	7,160 <4,193>	6,720 <3,518>	▲440 <▲675>
棚卸資産	4,738	5,770	+1,031
有形固定資産	5,083	5,205	+121
その他資産	3,658	3,537	▲121
資産合計	21,491	22,281	+790
支払手形・買掛金	3,089	2,766	▲323
借入金・社債 [b] ＜除くリテールファイナンス会社＞	5,440 <2,769>	6,678 <3,762>	+1,238 <+993>
その他の負債	3,234	3,139	▲94
負債合計	11,764	12,584	+819
(株主資本比率)	(43.0%)	(41.6%)	(▲1.4ポイント)
株主資本	9,238	9,277	+39
非支配持分	488	419	▲68
負債及び純資産合計	21,491	22,281	+790
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	0.50 4,591	0.61 5,630	+1,039
ネットD/Eレシオ(リテールファイナンス会社を除いた場合)	0.24	0.33	

- 2011年12月末の総資産は、需要拡大に対応した鉱山機械、部品の在庫積み増し等により、前期末比+790億円増の2兆2,281億円となりました。
 棚卸資産の増加1,031億円のうち約550億円は好調な鉱山機械(部品を含む)によるものです。
- 借入金増加の影響により、ネット・デット・エクイティ・レシオは前期末比0.11ポイント上昇し、0.61となりました。3月末に向けて在庫、借入金は減少し、ネット・デット・エクイティ・レシオも改善する見込みです。

3. 建設・鉱山機械の需要等の状況

建設・鉱山機械： 主要7建機需要推移

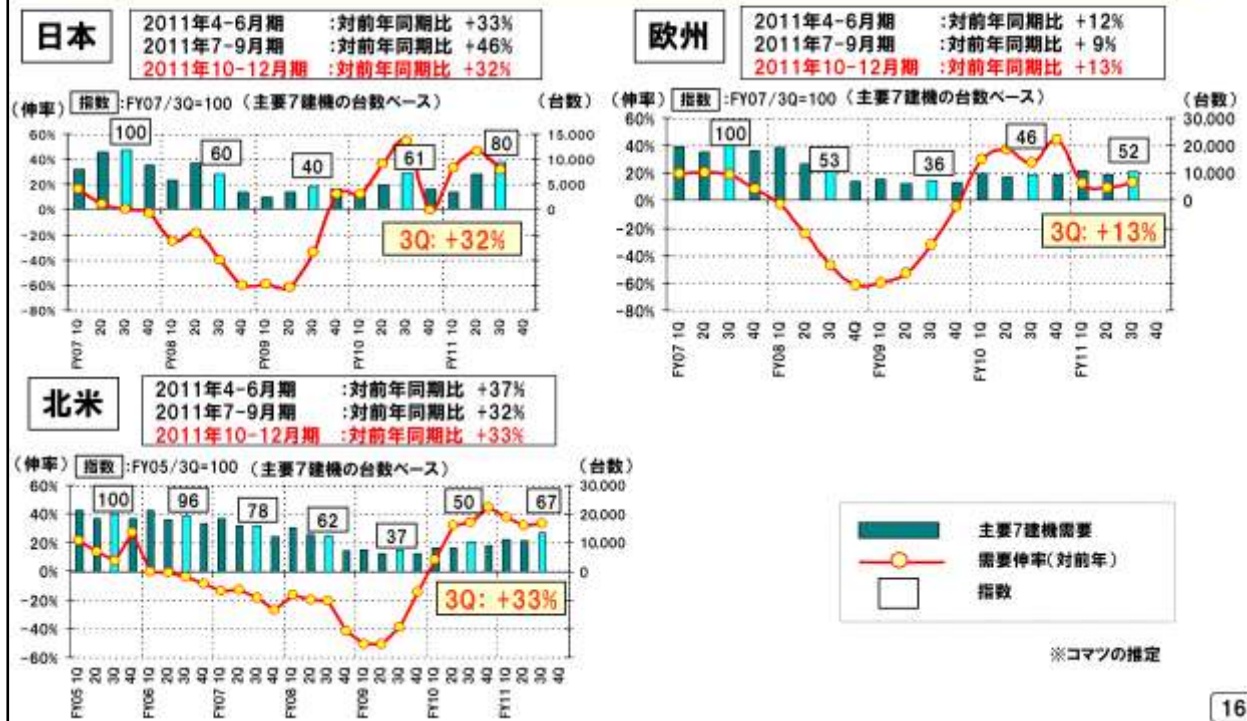
(3Q実績) 中国の大幅な需要減を、その他戦略市場および伝統市場が補い、対前年同期比+2%の増加。
 (通期見通し) 春節後の中国の需要水準により変動するが、対前期比0%~+6%程度の増加を見込む。



- 当四半期の主要7建機需要は、中国の大幅な落ち込みをその他の戦略市場、伝統市場が補い、対前年同期比+2%の増加となりました。
- 2011年度通期の主要7建機需要見通しは、対前期比0~+6%となる見通しです。
 中国の2012年1~3月の需要は予想が難しく、対前年同期比▲60%~▲30%の範囲で変動すると見えています。そのため全世界の需要見通しも0~+6%と幅を持たせた形としました。

建設・鉱山機械：主要市場の需要推移①：伝統市場

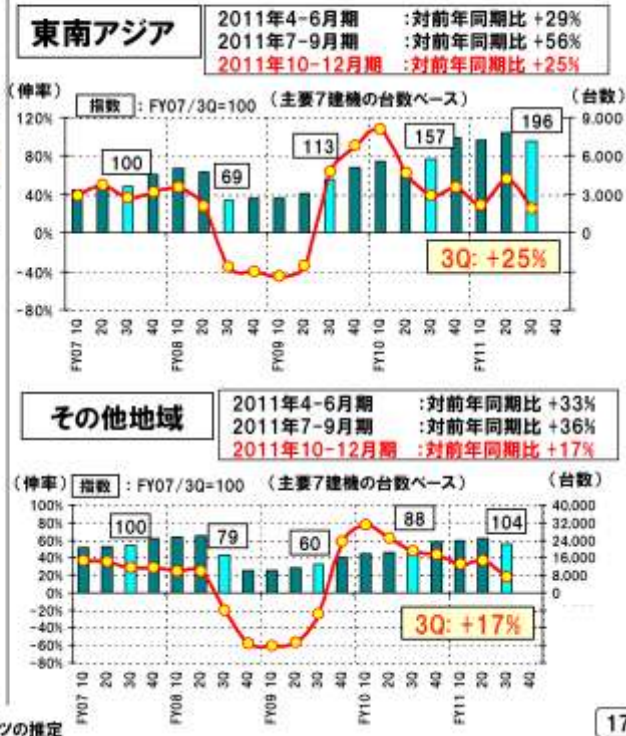
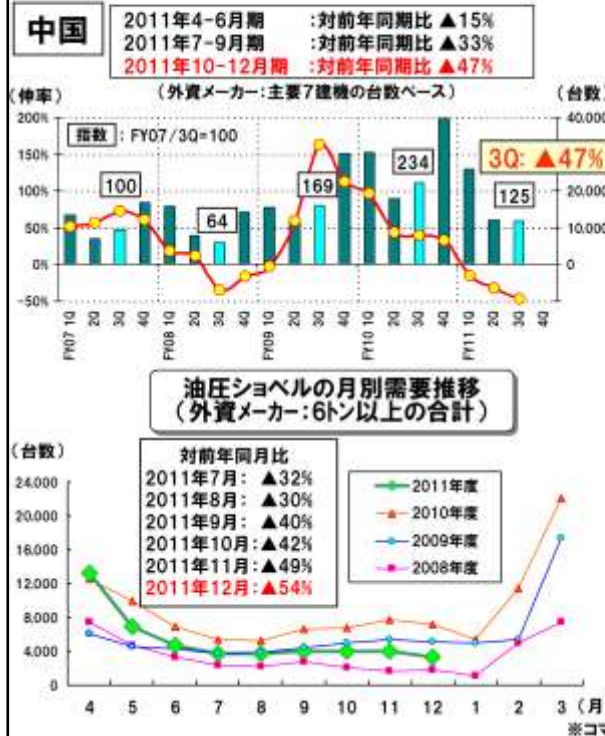
・第3四半期の伝統市場の需要は、日本、北米、欧州いずれも前年同期を上回り、引き続き回復基調が継続。



- 伝統市場における四半期毎の建設機械・車両の需要です。四角で囲んだ数値は、直近のピークである2007年度(日本、欧州)および2005年度(北米)の第3四半期の需要を100とした指数です。
- 日本の当四半期の需要は、東日本大震災からの復旧・復興向けが堅調であり、対前年同期比+32%でした。日本では2000年頃から中古車輸出が新車需要を上回っていたため、油圧ショベルの配車台数は、2002年の約35万台に対し、現在は約22万台に減少しています。震災復興の本格化に伴い、需要は当面堅調に推移するものと見ています。
- 北米ではレンタル車更新需要やエネルギー、マイニング向けが好調に推移しており、新排ガス規制(Tier4)対応機種種の市場導入も順調です。
- 欧州については、財政不安による景気減速懸念はありますが、主要市場であるドイツ、フランスを中心に需要は堅調です。

建設・鉱山機械：主要市場の需要推移②：戦略市場

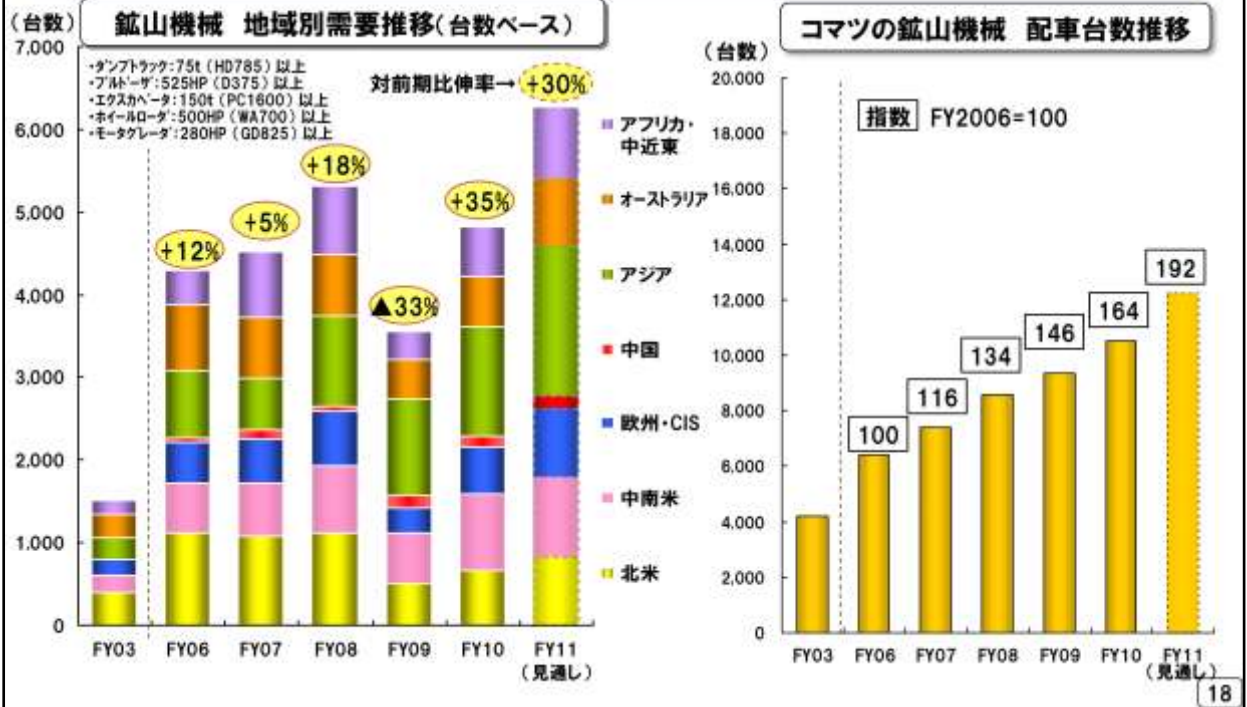
- ・第3四半期の中国の需要は、対前年同期比▲47%と大幅に減少。
- ・東南アジア、その他戦略市場の需要は、引き続き堅調に推移。



- 中国の当四半期の需要は、金融引き締めの影響を受け、対前年同期比▲47%とマイナス幅が拡大しました。
- 中国の月別需要推移(左下)をみると、2011年度(緑色)は10月以降下降しており、今後の推移は、2009年度レベルと2008年度レベルの間で幅を持って見ざるを得ない状況です。
- その他の戦略市場は、マイニング向け需要を中心に、引き続き堅調に推移する見通しです。

鉦山機械の需要と配車台数の見通し

- ・鉦山機械の需要は、アジアを中心に堅調に推移し、対前期比+30%増の見通し。
- ・需要の伸びを背景に、配車台数も引き続き拡大の見通し。

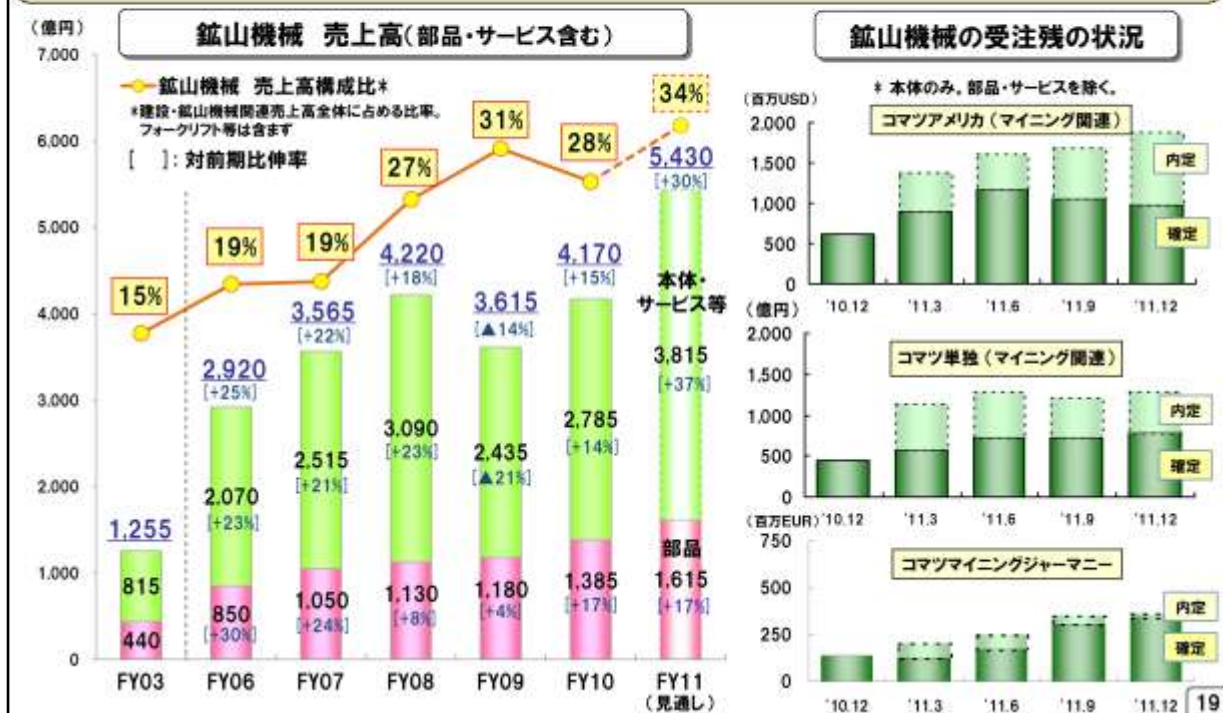


- 鉱山機械の需要は、旺盛な資源需要と堅調な資源価格に支えられて全世界で好調です。2011年度通期では、台数ベースで対前期比+30%増と過去最高の需要となる見通しです。
- 需要の伸びを背景に、コマツ鉱山機械の2011年度の配車台数(過去10年の販売累計)も、2003年と比べ約3倍、2006年と比べて約2倍と引き続き拡大する見通しです。

鉱山機械の売上げ見通し

- ・需要と配車台数の伸びを着実に取り込み、売上げは堅調に推移。売上高構成比*も拡大の見通し。
- ・受注も引き続き堅調に推移しており、受注残は高い水準を維持。

*建設・鉱山機械関連売上高全体に占める比率。
フォークリフト等は含まず



- 部品・サービスを含む鉱山機械全体の売上は、配車台数の伸びに伴う部品・サービス需要増を取り込むことで堅調に推移し、2011年通期で対前期比+30%増の5,430億円となる見込みです。米ドルベースで見ると約40%の増となります。
- 左グラフの折れ線は、建設・鉱山機械関連売上高に占める鉱山機械の比率を示しています。2011年は34%まで拡大する見込みです。
- 配車台数はコンスタントに増加していることから、鉱山機械の部品は景気変動に左右されず、堅調に伸びることが期待されます。
- 受注状況も引き続き堅調であり、特にコマツアメリカの電気駆動ダンプは受注額が更に伸びており、当面堅調な状態が続くとみえています。



オーストラリアの鉄鉱山で稼働する
コマツの無人ダンプトラック「930E」

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>